

## 第1回魚津市総合計画審議会 議事録

【日時】 令和元年7月18日（木）15:00～17:02

【場所】 魚津市役所4階委員会室

【出席者】 委員 23名

市当局 9名 村椿市長、四十万副市長、畠山教育長、川岸企画総務部長、矢田民生部長、  
武田産業建設部長、赤坂企画政策課長、戸田企画政策課長代理、石坂主任

15:00 開会

**事務局** 定刻となりましたので、ただ今から第1回魚津市総合計画審議会を開会いたします。審議会委員の皆様におかれましては、ご多用の折お集まりいただきありがとうございます。開会にあたりまして、魚津市長 村椿 晃よりご挨拶申し上げます。

**市長** 皆様どうもご苦勞様でございます。新しい魚津市の総合計画を策定する審議会ということで皆様方にはお忙しい中お集まりいただきました。今回、委員就任をお引き受けいただきましたこと、まずもって御礼申し上げます。あわせまして、市政の各分野において日頃からご協力いただいていることに対しましても重ねて感謝を申し上げます。

現在の総合計画は、平成23年3月に第4次基本構想を策定し、平成23年度から令和2年度までの10年間を計画期間として、その10年間を5年ごとに分ける形で基本計画を策定しております。本年度は平成28年度からスタートしている第10次基本計画の4年度目ということになります。当時から少子高齢化の急速な進行によります人口減少の問題、また東日本大震災を契機とした防災への市民意識の高まりや市民協働の促進など、現在に通ずる課題意識を持って基本構想や基本計画を策定しまして、行政運営に努めてきたという経緯があります。

しかしながら、策定から9年が経過し、社会経済情勢をはじめ国際関係など変化が加速しているという状況にあります。

基本構想を策定しました平成22年度末は魚津市の人口は約45,000人でした。市の人口、今年の4月には42,000人を下回っている状況です。65歳以上の人口比率を示す高齢化率で言いますと33.5%で、3人に1人が高齢者ということになります。今の時代65歳を高齢者というかどうかは議論のあるところですが、数値としてはそうなります。

一方、15歳未満の年少人口比率は10.6%、魚津市の人口がピークであった昭和60年、その頃は年少人口比率が21.0%と倍ぐらいあったということを考えますと、その変化の大きさを改めて痛感する次第であります。

そういった状況の中、最近では世界的な傾向でもありますけれども、環境の問題ですとか、いろいろな視点から『持続可能性』ということがよく話題に出てきます。さらには日本を見ますと外国人観光客をはじめ、外国人居住者の増加といったような変化も当時から見るとかなり大きな変化として出てきております。

こういった点を含めていろいろ考えていかなければならないという時期に来ていると思います。

また、現在、市では行財政改革推進委員会を進めております。今年の9月を目途に財政立て直しのプランを取りまとめる予定としております。あわせまして、魚津2040会議ということで、主に公共施設のあり方につきまして、将来負担世代の皆さんのご意見を中心にお聞きしているという状況にあります。これらの財政のプランですとか公共施設のあり方の内容も新たな総合計画の中に盛り込んでいく必要があります。

課題ははっきりしていると思っています。人口減少時代の中にあって、いかに持続可能な社会システムを市民の皆さんと共通の意識をもって作っていくかということになるかと思っています。言い換えれば市民一人一人がその個性に応じて、地域社会の形成に関わっていける、そういった地域を作っていくということになるかと思っています。

男性、女性、高齢者、障がいのある方、年少者、外国人、そして市民以外であっても魚津市を応援する関係の方々、こういった様々な方々とどうやってこの新しい魚津市を作っていくかということがポイントであると思っています。今はまだふさわしいキーワードは固まっていませんが、令和の新時代に向けて羅針盤となる新たな計画を皆さんの英知を集めて作っていきたいと思っています。

来年の年末頃にかけての1年8か月ぐらいの長丁場になりますけれども、皆様方にはぜひよろしくお願いをしたいと思います。審議会冒頭にあたりましての感謝とお願いのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

**事務局** それでは本審議会委員への就任にあたり、皆様のお手元には既に委嘱状をお配りさせていただいております。時間の都合もございますので、このような形とさせていただきました。何卒ご了承承願したいと思います。委嘱状に記載がありますとおり、委員の任期は本日7月18日から令和3年3月31日までとなっております。長期間となりますが、よろしくお願いいたします。それでは私の方から本日ご出席の委員の皆様をご紹介させていただきます。なお、ご紹介はお手元にお配りしております資料、封筒の中に何枚かめくっていただきますと、委員名簿が付いております。A4縦の1枚ものでございます。その名簿に記載の順番、五十音順で読み上げさせていただきます。

(委員紹介、市側出席者の紹介)

それではお手元の次第にしたがいまして、会長選出を行いたいと思います。

魚津市総合計画審議会条例第4条第1項の規定により、会長は委員の中から互選によって定めるととされております。どなたかご推薦等あればご発言をお願いいたします。

(特に発言なし)

もし、ご発言がないようであれば事務局で会長案をご用意しております。これにご了承いただきたく思うわけですが、いかがでしょうか。

(異議なしとの声あり、拍手あり)

ありがとうございます。それでは北陸職業能力開発大学校 校長 清水正明委員に会長をお願いしたいと思うわけですが、いかがでしょうか。

(異議なしとの声あり、拍手あり)

ありがとうございます。それでは清水委員は会長席へ移動をお願いします。

それでは清水会長からご挨拶をいただきたいと思います。よろしくお願いします。

**会 長** 清水と申します。どうぞよろしくお願いします。4月に北陸能開大の校長を拝命して3か月ほどになります。21年前に初めて富山に赴任し、富山大学で勤務しておりました。

市長の諮問機関として、市の最高位に位置付けられている総合計画の審議会ということで、忌憚のない意見を行政側にきちっとお伝えし、それが魚津市の活性化につながればと思っています。

学生時代以来40年ぶりぐらいに憧れだった魚津でこのような役割をいただき、ぜひとも貢献できたらと思います。これからどうぞよろしくお願いします。

**事務局** 清水会長ありがとうございました。次に、次第7の魚津市第5次総合計画 基本構想、第11次基本計画の諮問を行いたいと思います。本審議会は総合計画に関して、魚津市長の諮問に応じて必要な調査、審議をするために設置されるものであり、本日の第1回目の審議会において市長から審議会の会長へ諮問を行うものでございます。それでは市長、前の方へお願いいたします。なお、委員の皆様には、諮問の書類の写しを参考として配付しております。

(市長より諮問文を読み上げ、清水会長に手渡し)

**会 長** 承りました。皆様どうぞよろしくお願いいたします。

**事務局** ありがとうございました。席の方へお戻りください。それでは、ここから会議の進行は会長にお任せしたいと思いますので、どうぞよろしくお願いします。

**会 長** それでは、お手元にごございます次第に従い、次第8の議題につきまして、(1)から(4)まで事務局よりまとめて説明をお願いします。

**事務局** (説明)

- (1) 第4次魚津市総合計画について
- (2) 第5次魚津市総合計画策定フレームについて
- (3) 第5次魚津市総合計画策定スケジュールについて
- (4) 魚津市の現状と課題について

**会 長** ただいまの説明に関しまして、ご質問ご意見を自由に話し合っていたいただきたいと思います  
が、どなたかございますか。

**A 委員** 質問というよりお願いですが、こういう資料を今見て簡単に理解できないので、事前に配  
ってほしい。これだけの資料だったら最低限3日前ぐらいには目を通して、いろいろ質問も考えたい  
と思っている。よろしくお願ひしたい。

**事務局** おっしゃるとおり、事前にお送りするべきでしたが今回は間に合わず申し訳ありませんで  
した。第2回以降の会議につきましては、必ず事前に資料をお送りして、あらかじめ確認していただ  
けるようにいたします。

**A 委員** ありがとうございます。それともう1つ。第4次（計画）の結果というのが非常に大事だ  
と思う。第4次の結果の数値、あるいは理解しやすいように政策的なものも含めて説明をお願いした  
い。数値というのが非常に大事だと思うので、できるだけその数値をもって説明願ひたい。

**事務局** 資料2のスケジュールにお示ししていますが、第2回の審議会で現計画の検証というこ  
とで、188の成果指標の進捗状況を、平成30年度末時点での途中経過ではありますが、資料をとと  
のえてお示ししたいと思います。

**A 委員** よろしくお願ひします。

**会 長** ありがとうございます。本日はいろいろなことをフリートキングして、皆様の日頃の  
活動などを通じて、行政やまちづくりに対する意見を発言いただきたいと思います。  
皆さんの互いの強いや特徴を理解し、チームとして同一のゴールを目指していくための礎になるよう  
な意見交換になればと思います。どなたか発言はございませんか。

**B 委員** 約5年前に魚津に引っ越してきて、2人の子供を育てながら藍染めの仕事をしている。

人口減少や少子化、高齢化というのは、魚津に限らず、富山県、日本中が抱えている問題。

今から10年後、2030年を目標にいろいろ皆さんと考えていこうということだが、どんな年代で  
あれ5年後、10年後の魚津市の将来を自分事としてとらえるかが大事。

中山間地の鹿熊地区に移住して仕事をしているが、中山間地には中山間地の問題があり、街には街  
の問題があり、海沿いには海沿いの問題があり、どこかだけピンポイントにやっても解決すること  
ではない。かといって全体のもを解決するのも複雑で難しい。

10年後は今の中学生、高校生が現役で働く世代として頑張っている。その子たちに自分たちのま  
ちがどうなっていくか考えていくきっかけ、アプローチがあればよいと思う。

若い世代だけに対して何かをすればよいというわけではない。年配の人たちから若い世代まで意識  
を共有、共感して一つのことに向かっていくことで少しずつ町が変わっていくのではないかな。

**会 長** ありがとうございます。事務局の方でコメントございますか。

**市 長** 今の視点はとても大切。計画を作るプロセスで若い世代の意見を取り入れることも大事。計画だけでなくもう少しスパンの長いシステムとして、そういった若い世代の意見を、全てを聞けるわけではないが、吸収していく仕組みを作っていくことが大事だと感じた。

**会 長** ありがとうございます。今後のまちづくり、総合的な指針を答申したいということ。それは別の言い方をすれば、魚津市に関して、魚津市の理念を市民全員で共有したい、魚津市の将来像、政策、施策の方向性を十二分に説明していただいて、共有していきたい。そうすると市民の力が一つの方向に向いてまとまるから、大きな活力、活性化につながるだろう。

特に感受性の豊かな若い世代、あらゆる世代に魅力を感じる内容にできたら良いと思う。私の個人的な意見としては、お年寄りには知恵袋とか大事にしたいと思っている。年配の方も若い人と同様に、市民の目線でもってどこまで行政側にお伝えできるか、それがこの審議会にかかっているのではないかと考えています。貴重なご意見ありがとうございます。全く同感です。そのほかございませんか。

**C 委員** 移住定住つながりで続いて発言したい。今朝もシルバー人材で枝はらいをしてきた。私は70歳になるが若い方で、皆さん非常に元気。知恵袋で体も動くし、いろんな仕事されている。とにかく年寄りが元気な背中を若い人に見せないといけないと思う。富山に定住して幸せな生活を送っている。魚津が大好きな人間なので、盛り上げていきたいと思っている。

**会 長** ありがとうございます。続いて、それぞれの立場で自由に発言していただきたいと思えます。

**D 委員** 観光ボランティア、水守ガイド、ジオパークガイドをしている。10年前、魚津の水循環はまだそんなに取り組まれていなかったが、この7、8年で魚津のメインの一つになっている。今年も洞杉を4、5回、滝を案内した。東京、大阪の人から魚津の良いところをすごくほめてもらった。今年も清流小の3年60名を洞杉案内して子供たちがとても喜んでいて、すごく自然に感動していた。このように小学校の子供たちを自然に触れさせて、その子供たちが小学校の思い出として、洞杉や円筒分水がよかったと振り返ってもらえればと思う。今環境安全課の方で私たちの取組みをすごく応援してくれている。これからも若い人に広げていって、10年後、魚津に住むことがブランドになるぐらいに盛り上げていけたらと思っている。

**会 長** ありがとうございます。では、まだ発言されていない方、順に一人2分ぐらいで発言をお願いします。

**E 委員** 消防団の副団長。その前は片貝で分団長をしていた。前任者も審議会委員を務めていたということだが、自分にどこまでできるかわからないが一生懸命務めたい。

**F 委員** 男女参画推進委員。子育てや家事について最近の若い男性は意識が変わってきていると感じる。また、地元の加積地区は、「魚津の元気は加積から」ということで高齢者も非常に元気。この人たちがいないと地域が成り立たない。魚津の活性化のためにお手伝いできればと思っている。

**G 委員** 魚津市銀行協会。黒部市在住だが青年会議所にも在籍して魚津に長くいる。業種柄いろんなお客さんと関わっており、今は人手不足が大きな課題になっている。一方で、総合戦略の6ページの重点プロジェクト、安心雇用プロジェクトでは「仕事をつくり若者・女性をはじめとする市民が安心して働けるまち魚津を作ります」となっており、人手不足なのに雇用を創出という、一見ギャップを感じるが、若い人がやはり大学に行って戻ってきて働きたいと思う環境が少ないということかと感じる。

また、人手不足でありながら、新聞等によれば全国で引きこもりの方の人数が富山県の人口よりも多いと聞く。こういった方が何とか社会に出てきてもらえれば活力につながるのではと思っている。金融機関として市に協力できればと思っている。

**H 委員** 新川青年会議所。初めてなので意見や質問がなかなかできなかったが、青年会議所の紹介もかねて発言したい。20歳から40歳までの経営者や後継者の団体。青少年育成事業、まちづくり活動などをやっている。審議会でも若者らしく明るい視点で意見を述べていきたい。

**I 委員** 魚津市体育協会。専門はバドミントン。15歳から60歳までずっとやっている。小さい頃に出会った先輩が良かった。一度横浜に出たが、Uターンで戻った。魚津に魅力があった。仕事柄、海外にも何度か行き、子供にも海外留学をさせた。海外に行って自分の国、自分の地域の伝統文化を表現できないと恥ずかしい。

子供たちに、魚津の魅力を伝えふるさとを愛する気持ちを育みたい、スポーツを通じて何かできないかと思って活動している。

**A 委員** 魚津自主防災会組織、防災関係、県の防災士会で活動している。最近の気象異常を皆さん感じていると思う。何が起こってもおかしくない。片貝川 1/12 の勾配。川じゃなくて滝という人もいる。降水量が上がり、洪水の可能性が高まって、同時に土砂災害の危険性も。13地区あるが各地区で自分たちがどうやって命を守れるか。災害時要支援者対策も十分に考えたうえで地域の安全をそれぞれが考える。これをぜひ計画に入れてほしい。県の防災士会も全面協力する。あちこちで講習会もしているが、やはり皆さんの関心が高まってきている。魚津は災害がもし起こっても人の命は助かったとなるように。全力投球していきたい。

**J 委員** 社会福祉協議会より参加。皆さんの話を聞いて、福祉をキーワードにまちづくりをしていこうという組織だが、まだまだやることがあると感じた。社協の役割とまちづくりをつなげていかねばと感じるとともに、障がいのある人たちや先ほど話のあった引きこもりの方の支援をする仕事をしているが、そういう人にもできる役割があると常に思っていて、この人たちがまちに参画していく取組

を新しい計画に入れていけば、みんなでまちをつくっていくという感じになると思う。

**K 委員** 魚津市農業協同組合の女性部から参加。個人的にはりんご農家。女性部に携わっている関係で一生懸命仕事をしている女性に囲まれている。吉岡さんの話にもあったが、年配の方はとても元気。農業をしながらスポーツ、音楽、ボランティア。こんな元気な中高年になりたいと思う。若者ももちろん大事だが、輝く中高年が増えればまちも活性化すると思う。魚津の自然は、海岸から山まで25キロ、めずらしい地形、水もよい土地もよい。野菜がおいしくとれる。そういう自然のことを親子に伝える活動をボランティアでしている人もいる。若い人はなかなか団体に加入する時代ではなくなっている。接点が少ない。その中でそういった活動を通じてつながりを持つことも大切。

帰宅するときに山の方へ向かっていくが、山から見て駅の向こうに海が見えるという景観をいいなと思っている。

**L 委員** 魚津女性の会連絡会より参加。先ほど会長も言われた魚津市が何を指すのか、どういうことをやりたいのか、しっかり市民に分かりやすく知らせてほしい。内容の成果を私たちがどのように評価して自分たちの思いを次の計画に入れてもらうというのが委員としての仕事かと思う。女性の会連絡会としては女性の市政への参画、行政の中での地位向上、各企業の中での地位向上をぜひ目指してもらいたい。

**M 委員** 医師会より参加。魚津には昭和60年から病院の勤務医として赴任。魚津は高齢化が激しい。老人のいくところなくなっている。在宅、地域包括どうなるか、全体としてそういうものを受け入れる努力をしていく必要がある。つながりを持ってみんなで一緒に考えていける環境づくりが大事。地域のえざらい、まつりに積極的に参加。地域の中でつながり持つこと大事である。

**N 委員** 文化協会より参加。自分が住んでいるところはまちなかで、年寄りが多い。子供がいない。空き家が多い。文化もそうだが高齢者がとても多く、どんどん減っている。若い力が元気をもらえらると思う。文化は心の潤いになる。趣味が一つあればいろんな力になる。小さなお子さんとかも（催しなどに）足運んでもらえればと思う。

**O 委員** 公募で市の広報を見て応募。町内会長をしている。世代間交流の行事を積極的に実施。昔の話だが、前市長が道下公民館でのタウンミーティングの時に言われたのが、「来ているのは高齢者ばかり」だと。その中で言われた「皆さんの子供を東京大阪名古屋から何とか戻してほしい。そうすれば人口減が緩やかになる」と。人口減は絶対止められない。いろいろ方策は練らなきゃいけないと思う。しかし、実際地元の高校を出て、根拠はないが5割以上が県外に行くのでは。市の財政で小中高と育てて向こうの大学、向こうで就職、お金が落ちてこない。そこじゃないかと。

では戻ってもらうためにはどうするか。企業誘致、市も努力されていると思うがそろそろ限界が来ているのかなど。我々がどういう提案ができるかわからないが、市に何とかしてくれではなく、市民が何とかできんかなど。知恵を絞って考えていきたいと思う。

**P 委員** 連合新川地協より参加。働く人の給料を上げる。賃金交渉。職場の環境を良くしたい。ただ、それだけでは暮らしは良くならない。賃金上げるといってもなかなか上がらない。ワークライフバランスとかいろんな取組をしている中で、1日の1/3は働いているが2/3はそれぞれの地域で生活している。労働組合トップの思い発信するが、組合員の参画意識が高まらない。市の取組みとしても、市民の皆さんの参画意識をどう高めていけばよいかという視点が大事かと思う。アンケートやヒアリングしながら進めると思うので、そういう声を結果としてPDCAをして取り組めばよいまちづくりになるのでは。働く者、家族の意見を代弁という形で力になればと思っている。

**Q 委員** 魚津商工会議所女性会。りんごのオーナー制度3年前からやっており、加積地区の方にお世話になっているが、先ほど話があったように本当に元気。何かイベントをする時もすごく協力的。地域が頑張ると魚津市全体が盛り上がると思う。東京にいる息子が結婚していずれは魚津に戻った時に孫が育つ環境が心配。若い人は滑川、黒部に行ってしまう。土地が安い。家がすぐ建てられるとか、いろいろ無償化しているとか。しかし、そういう部分ではない魚津の魅力があると思う。計画の中で子育てするにはとても良いところだというPRをしてほしい。

**R 委員** 観光協会より参加。審議会の日程を早めに連絡願いたい。  
ケネディ大統領の言葉だったと思うが、国が何をしてくれるかではなく、国に何ができるか、これを市に置き換えて、そのまま書いたらだめだと思うが、根幹にそういう考え方を持つべき。  
魚津は歴史のある町。魚津の強みを洗い出してそれを生かす。ダメになるものに注いでもダメ。みんな平等にするのはダメ。伸ばすべきものと言葉は悪いが切り捨てるものも必要。

市長がよく言われるように市の財政がひっ迫している。企業をバックアップしていくことで、豊かな財政に最終的につながる。稼ぐ力を中心に据えるべき。

審議会の委員になって非常に責任感している。まちの将来を左右する、後から恥ずべきことのないようにと思う。

やめることと残すこと発展させるべきことを取捨選択して計画に盛り込むべき。

**S 委員** 新川森林組合より参加。高齢化人口減少。山に向かわない、山を知らない人が多い。自分はずっと魚津にいるが、中学同級会の時に県外の大学に行った人がほとんど帰ってこない。魚津で働くところがないということなのか。皆さんと横のつながりを作りながら、自分たちが魚津の魅力を知ること。そして皆さんに知らせることが大事と思っている。

**T 委員** 魚津漁協。急速に進行する人口減少と高齢化、単独の市ですべての行政サービスをやっていくのは難しい時代になっている。消防など既に広域になったものもある。隣接の市町村新川広域と一緒にやれるものはやっていく仕組みを考えるべき。  
漁協でも広域でという声が出ている。これからの時代に必要なこと。ただ、魚津としてコアな部分は大事にすべき。

**U 委員** 新川インフォメーションセンターより参加。魚津市の人口が減少して元気がなくなってい

くのか、人口減が止まって元気になるのかは、わが社にも直結する問題。魚津市とともにあるといっても過言ではないと思っている。若い人が大切という声、年配の元気を活性化という声、どちらもその通り。すべての方に寄り添うことはなかなか難しいと思うが、魚津が盛り上がって元気になってもらうことが願いである。

**Ⅴ 委員** 自治振興会連合会より参加。魚津には 13 地区があり、それぞれ地区振興会、地域振興会がある。その連合会。今朝の新聞に記事が出ていたが、女性活躍社会、管理職の割合が目標の半分になっていないとか、地方創生が進まない。

我々の頃は 55 歳定年、それが 60 になり、65 になり、今や 70 まで働いて、元気な間は働いてもらうということになっている。そのためかシルバー人材センターが人材不足で困っていると聞く。

皆さんにいろいろな意見を出してもらって吸収して持ち帰って、協議して話を前に進めていきたいと思っている。

**会 長** 皆様ありがとうございました。今日皆さんからいただいたいろいろな発言は、魚津における人づくりという範疇でくれるのではないかと感じた。市民一人ひとりの力、それが一丸となって魚津が一つのコミュニティとして、周りとの連携、連帯、協働しながら、コミュニケーションと人づくり、市としてそういうものに支えられた共生社会としての総合計画を答申できれば、多くの市民の方から一緒に支えてくれるというか、行政中心でなく市民ベースで進められる総合計画になるのではないかというのが私の感想である。

本日はフリーに発言していただいたが、次回は事前に内容をお伝えした上で、効率よく審議できればと思う。事務局は大変かと思うがよろしくお願ひしたい。それでは事務局にお返しします。

**事務局** 清水会長ありがとうございました。本日の資料の中に意見用紙が入っておりますので、本日発言できなかったことや、日頃考えていることなど何でも構いませんので、様式も任意で結構です。事務局にご連絡ください。

最後に市長から一言申し上げます。

**市 長** 本日はありがとうございました。いろんな社会情勢の大きく変化したり、自然災害が起きたりする中で、年代を問わず皆さんが思っているのは、平穩に安心して生活をどうやって維持していくかということだと思います。高齢者は高齢者で、若者は若者で不安を持っています。そういった中でどういう地域を作っていくかというのが究極のテーマだと思っています。今日はお一人お一人から非常に示唆に富んだ発言をいただきました。会長もおっしゃったが、最後は人がまちをつくっていく。そういったものをどう計画の中に盛り込むか、だと思っています。

次回以降、本日のご指摘をもとに、十分なお意見をいただける準備をしていきたいと思ひますので、ご協力をお願いします。本日はどうもありがとうございました。

**事務局** それでは本日の会議を終了します。皆様ありがとうございました。

17:02 閉会